

北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター

東アジアのなかの北海道



CO	938	ソウル	10:55	11:40	12:20
ZE	6022	ソウル	11:00	11:50	12:30
KE	766	ソウル	11:50	13:10	13:50
CZ	618	瀋陽	12:00	12:50	13:30
MU	280	上海	12:00	12:50	13:30
CA	170	北京	12:20	13:10	13:50
CI	131	台北	12:25	13:45	14:25
BR	115	台北	13:35	14:55	15:35
CX	581	香港	14:00	15:20	16:00
UO	635	香港	16:40	17:20	

自 平成24年7月26日(木)

至 平成24年8月23日(木)

< 毎週木曜日(8/16除く) 午後6時30分~午後8時30分 >

東アジアのなかの北海道

地方が東京を経由せずに、直接、国際社会とつながる時代が到来しています。国際社会とのヒトやモノのダイレクトな太い流通網をどれだけ築けるかは地域の発展のかぎを握る要素ともなっています。北海道には豊かな自然環境と国際競争力のある農水産業があり、それらを活かした国際戦略をいかに展開するかが問われています。北海道にとってとりわけ重要な意味をもつパートナーは目下のところ中国、台湾、韓国などの東アジアの諸地域です。実際、これらの地域では近年、たいへんな北海道ブームが起きており、多くの観光客が押し寄せています。札幌をはじめ各地の観光地で中国語やハングルの看板や標識が目立ち始めています。

この講座では、東アジアとかかわりの深い4名の研究者、実務家に東アジアから北海道がどう見えているかを語っていただき、東アジアの人々が北海道にどんな視線を送っているかという角度から北海道の国際化戦略を展望します。中国、台湾、韓国の文化や経済に関心のある市民の皆さんの参加もお待ちしております。

北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長
鈴木 賢

「北海道の国際化と東アジア」

- ◆講師 北海道大学法学研究科教授／附属高等法政教育研究センター長 鈴木 賢
1960年、北海道生まれ。北海道大学大学院法学研究科博士課程修了、博士(法学)、中国法・台湾法専攻。
著者に『現代中国法入門』(有斐閣、共著)、『中国にとって法とは何か』(岩波書店、共著)。



<概要>

新千歳空港からの国際定期便は現在、世界9都市に就航していますが、そのうち7路線までが東アジアによって占められています。いまや道内各地の温泉旅館やデパート、お土産店、家電量販店、はたまた大学のキャンパス内でも中国語やハングルが頻繁に飛び交います。北海道にとっての国際化とは端的には東アジア各国とのつながりが深まることに他ならないということをや人やモノの流れを通じてお話します。また、東アジアの人たちから北海道がどう見られているかをご紹介します、北海道ブランド確立へのヒントを探りたいと思います。

「中国から見た北海道」

- ◆講師 北海道大学メディア・コミュニケーション研究院／教育学院多元文化教育論講座 教授
野澤 俊敬
1949年、青森生まれ、北海道育ち。北海道大学文学部中国文学科卒業、中国現代文学、日中比較文化論専攻、北海道大学北京オフィス所長。
訳書に『現代中国知識人批判』(劉曉波著、徳間書店)、著書に『上海歴史ガイドブック』(大修館書店、共著)。



<概要>

2009年に映画『狙った恋の落とし方(非誠勿擾)』が大ヒットしたことにより、中国の人々にとって北海道は是非とも訪れてみたい場所になり、観光客がどっと押し寄せるようになりました。しかし、実は30年前に、中国の人々はスクリーンの上で北海道に出会っていました。1978年に中国で高倉健主演の『君を憤怒の河を渉れ(追捕)』が公開されると、社会現象ともいえるほどの人気を博しました。高倉健の主演作はその後も次々と中国の観客に熱狂的に受け入れられ、そのすべてが北海道を舞台とする映画でした。高倉健の人気にあやかるように北海道は中国の人々に好感をもたれるようになりました。一方、テレビドラマでは82年に公開された『燃えろ! アタック』が大ヒットし、その主人公「小鹿ジュン」が北海道出身の設定であったことも、北海道人気に拍車をかけました。では、その後の大きな社会状況の変化の中で、中国の人々の北海道に寄せる思いはどのように変わっていったのでしょうか。主に映画を材料にして、自分の体験をまじえて語ってみたいと思います。

「台湾から見た北海道」

- ◆ 講 師 台北駐日経済文化代表処札幌分処処長 徐 瑞湖
1952年、台湾苗栗生まれ。淡江大学日本研究所修士。
2008年～2009年 亜東関係協会副秘書長、
2009年8月～台北駐日経済文化代表処札幌分処処長（総領事相当）



<概要>

3000キロ近く、飛行機の飛行時間でおおよそ4時間ほどの距離にある南国「台湾」と北国「北海道」、意外に歴史的なつながりの深さや共通性のある島だと2009年8月に赴任してからやっと知りました。近年来、台湾から北海道に来る観光客は常に外国人訪問客の1/3ないし半分の人数に達します。なぜ台湾の人々はこんなに北海道が好きなのか？ 北海道の魅力はどこにあるのか？ 広大な大地、神秘の白、温泉天国、世界遺産など。台湾人から見た北海道の魅力について語ってみたいと思います。

『Love Letter』から『Love Rain』まで — 韓国のメディア・ポピュラー文化における「北海道のイメージ」の変容過程 —

- ◆ 講 師 北海道大学メディア・コミュニケーション研究院／東アジアメディア研究センター 准教授
金 成政（きむ・そんみん/KIM Sungmin）
1976年、韓国ソウル生まれ。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。
東京大学大学院情報学環助教を経て現職。
専門領域は、メディア研究、カルチュラル・スタディーズ。



<概要>

韓国で日本のポピュラー文化の輸入が正式に開始された1998年以降、商業的に成功した最初の映画は、小樽を舞台にした『Love Letter』であった。以降北海道のイメージは、日本を表象する重要な要素の一つとして、ドラマや映画、バラエティ番組など、韓国のメディア・ポピュラー文化のなかでさまざまな形で消費されてきた。チャン・グンソク主演の最新ドラマ『Love Rain』はその代表的な事例の一つであろう。本講義では、韓国のメディア・ポピュラー文化における北海道のイメージの変容過程を検討し、その意味がもつ限界と可能性を日韓の文化交流の水準で考えてみます。



1. 開講日程

日 程	講 義 題 目	講 師
第1回	7月26日(木) 北海道の国際化と東アジア	北海道大学大学院法学研究科 附属高等法政教育研究センター 教 授 鈴 木 賢
第2回	8月2日(木) 中国から見た北海道	北海道大学メディア・コミュニケーション研究院 教 授 野 澤 俊 敬
第3回	8月9日(木) 台湾から見た北海道	北駐日経済文化代表処札幌分処 処 長 徐 瑞 湖
第4回	8月23日(木) 『Love Letter』から「Love Rain」まで —韓国メディア・ポピュラー文化における 「北海道のイメージ」の変容過程—	北海道大学メディア・コミュニケーション 研究院東アジアメディア研究センター 准教授 金 成 玫

2. 実施会場

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W202室(札幌市北区北9条西7丁目)

3. 受講資格

満18歳以上の方であればどなたでも受講できます。

4. 定員

50名

5. 申込要領

- (ア) 申込期間 6月25日(月) から7月9日(月)まで〔土曜日・日曜日及び祝日を除く〕 午前9時から午後5時00分
※なお、受講者数に限りがありますので、申込期間内であっても定員に達した場合には、申込を締切場合があります。
- (イ) 申込場所 札幌市北区北9条西7丁目 北海道大学法学研究科・法学部庶務担当
- (ウ) 受講申込書に必要事項を記入のうえ、直接または郵送にてお申し込みください。
※受講者証は所定の振込用紙のE票(郵便振替払込受付証明書・北海道大学受付証明書)と引換えに公開講座初日にお渡します。
※受講申込書で得られた個人情報、個人情報保護法に則り、本公開講座の運営及び関連統計業務以外の目的には一切使用いたしません。

6. 受講料

- (ア) 金 額 3,000円
- (イ) 納付方法 受講申込後に郵送します所定の振込用紙ご利用の上、銀行または郵便局によりお振込み願います。お振込みは必ず窓口で行い、E票を受領してください。
※E票は公開講座初日に受講者証と引換えいただきますので、ATM(現金自動預払機)は利用しないでください。
※納入した受講料はお返できません。

7. 修了証書

3回以上受講した方には、修了証書を授与します。

8. その他

- (ア) この講座に関するお問い合わせ先
北海道大学法学研究科・法学部庶務担当
〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目 電話011-706-(ダイヤルイン3119, 3118)
- (イ) 申込場所および実施会場の略図は別図のとおりです。(車での来学はご遠慮願います)
- (ウ) 道民カレッジに入学されている方で、本講座を受講し、修了証書の交付を受けた方は、道民カレッジの単位を取得することができます。(本講座:8単位)

〈申込場所・実施会場案内図〉

※ 車での来学はご遠慮願います。



〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西7丁目
 北海道大学法学研究科・法学部庶務担当
 電話 011-706-3119
 FAX 011-706-4948

※(きりとり線)

平成24年度北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター公開講座 受講申込書

ふりがな 氏名		年齢 性別	満歳 男・女
現住所	(〒 -) 都道府県	TEL () -	
受講歴	過去に本公開講座を受講されたことがある方は以下の受講年度に○印をつけてください。 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 その他(年度)		
道民カレッジ 連携講座 単位認定	有・無 (○印をつけてください)	手帳番号	
備考	<以下は記入しないでください>		
		受付 月 日	番号

北海道大学大学院法学研究科
附属高等法政教育研究センター

東アジアのなかの北海道

〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西7丁目

電話 011-706-3119

FAX 011-706-4948